

冬合宿：八ヶ岳、山行報告

- ◆日程 2015年12月26日(土)～29日(火)
- ◆メンバー L：須田、雫、日比野、猪田

12/26(土) 1日目 入山

天候：晴れ

コースタイム：

美濃戸口出発(10:30)、美濃戸山荘(11:27～11:43)、一本(12:30～12:37)、一本(13:38～13:48)、一本(14:30～14:42)、行者小屋着(14:58)、消灯(21:15)

冬合宿は一昨年八ヶ岳で行っており阿弥陀岳北陵メインとして組み今回もメンバーを代えて同様のルートを組み。事前の冬山トレーニンは谷川のみで万全の備えとはいかないが実行する。

今年は例年になく12月26日と早い入山となり自分は一人で25日夜に茅野駅にステーションビバークする、誰もいないと思ったがテント1張り、他に3人寝ていた静かで快適な場所だ。翌日も良い天気だ。須田、日比野両氏と合流しバスで美濃戸に向かう駅の周辺、美濃戸には雪はまったく無く温かい。美濃戸にはおしゃれなカフェが建っていた。林道を歩き美濃戸山荘に着くまで雪は無い。山荘下の駐車場はほぼ満車だ。



美濃戸山荘でお茶を頂き南沢を行者小屋に向けて出発する。雪はまだない。赤嶽神社

が祀ってある祠辺りから雪が出てくるがほとんどない。荷物は重くずっしりくるが快適だ。



行者小屋にはテントもわずかしかないので小屋の近くに張る。雪は20センチほどで少ない。時間が

あるので小屋の中で休憩ティタイムとしゃれ込む。8月まで販売していた懐かしのビール「モルツ」が有り楽しむ。

テントにて夕食、明日は天気は良くなさそう。月明かりが明るい。(記：雫)

12/27(日) 2日目 入山

仕事の都合で1日遅れの入山となる。前日から入山の3人より行者小屋までの状況はメールにて積雪が少ないとの連絡は受けていた。スーパーあずさ1号にて八王子から茅野へ向かう。茅野駅から美濃戸口まではバスで装備を整えるが雪は無く美濃戸山荘から数センチある状況だった。下は天候は良かったが赤岳方向は少しガスっている感じであった。また入山者もそれほど多くなく年末前の様子である。冬の八ヶ岳でこれほど雪が少ないのは初めてであった。

今回、共同装備としてはガスボンベ小4本とラーメン4食うどん4食とα米6食の持参であったが、美濃戸山荘より3時間弱で行者小屋へ到着。雫さん、須田さん、日比野さん



と行者小屋の休憩スペースで合流。15時前の到着で想定より早かったとの事である。この日の行者小屋周辺の天候は午前中は良く

なく、阿弥陀岳北陵を翌日にし、本日は硫黄岳を往復のルートに登ってきたとの事、明日は阿弥陀岳北陵を3人で行き、雫さんは赤岳往復という事で調整した。テント場周辺は寒く八ヶ岳らしさがあり休憩スペースで暫く過ごしてテントで夕食(鍋)をとり就寝する。

(記：猪田)

12/27(日) 2日目 硫黄岳往復

天候：雪のち晴

コースタイム：

起床(5:10)、行者小屋出発(7:27)、赤岳鉱泉(7:57~8:05)、一本(9:23~9:33)、硫黄岳山頂(10:05)、赤岳鉱泉(11:14~11:40)、中山尾根展望台(12:36)、行者小屋着(12:50)、消灯(20:00)



昨夜から小雪がちらついている。それに加え濃い霧が出ている。まずは赤岳鉱泉に向かう樹林帯を30分位歩く。イメージでは平らな道かと思っていたが結構な下りであった。赤岳鉱泉もテントは少なめに見えたが、登山者はたくさんいた。ここからしばらく樹林帯の登りになる。結構いいペースで登っているが、今回は樹林帯が長く感じた。途中で一本とると、前から全身真っ白になったパーティーが下りてきた。上は相当風が強いんだなとすぐに分かる。ゴーグルを着けて歩きはじめると、すぐに稜線に出た。普段の冬山だと稜線に出る前に雪の斜面があるのだが、異常なほど雪が少なく、夏道を歩いたので樹林帯が長く感じたんだと思う。稜線に出ると、山頂まで時おりよろけそうになるくらい風が強い。硫黄岳山頂も強風なので長居は無用。厚手の手袋を外し内側の薄い手袋で写真撮影をしていたら、手袋の穴のあいた部分が一瞬で冷え痛くなった。山で風の強いときには、低体温症と凍傷に気をつけなくてはならないと、あらためて感じた。

稜線から西側に入ってしまうと、さっきまでの強風が嘘のように無風となる。下っているうちに天候も回復してきて一部青空も見えてきた。時間もまだ早いので、行者小屋手前

の中山展望台に寄ってみる。思った以上に展望が良かった。横岳、大同心、明日登る阿弥陀岳北稜も良く見える。



テン場に戻り、行者小屋の共有スペースで休んでいると、1日遅れで入山してきた猪田さんが登ってきた。4人揃ったところで乾杯。明日は晴れそうだ。

(記：日比野)

12月28日(月) 3日目 赤岳往復

天候：晴れ

今日は良い天気だ。阿弥陀北稜へ登る3人と別れ文三郎から赤岳へ向かう。天気も良く景色を見ながら快適に登って行く。時折、冷たい突風が来るがいつも八ヶ岳の寒さと強さは無い。左に目をやると赤岳西壁を2パーティーが登攀している。分岐まで来て北稜を見ると3人の姿が見える。まだ北稜取り付きの下を歩いている。

赤岳頂上は素晴らしい天気、360度の第1パノラマ。富士山、南アルプス、中央アルプス、御嶽山、乗鞍岳、北アルプス、剣岳がきれいに見える。風をよけ岩陰でしばしみとれてから来た道を下る。分岐まで来て阿弥陀岳方面に降りていく。北稜に目をやると3人が核心部を登りきったのが見えたので阿弥陀まで行くのを止め文三郎尾根に引き返す。日差しが行者小屋に当たったところ小屋に着き自分の今年最後の登山が終了となった。

(記 隼)

12月28日(月)3日目 阿弥陀岳北稜

天候：晴れ

メンバー：須田、日比野、猪田

コースタイム：5:00 起床～7:10 行者小屋
発～8:15 休～8:50 阿弥陀北稜取付～10:00
2 ピッチ終了～10:30 阿弥陀岳頂上～11:10
中岳のコル～12:00 文三郎分岐～12:45 赤岳
頂上～13:45 行者小屋

5時起床。外は昨日とは打って変わって満天の星空だ。月明かりも眩しく絶好の山日和になるのは間違いないだろう。

今日のルートは行程が短いのでゆっくり7時過ぎに4人で出発する。阿弥陀への分岐で零さんと別れ、しっかりトレースが付いている道を北稜目指して進んだ。

しばらくすると、右上方に稜線が見えてきたので右側の急斜面を登ることにする。

トレースが無いので膝上位のラッセルとなり、先頭を交代しながら雪を掻き分け進んだ。

やっと稜線に出るとしっかりしたトレースがありホッとした。ここから北稜を見上げると1パーティー登っているのが見えた。少し先の陽が当たっているところで一本取り、テルモスのお湯を飲んで休んだ。

風も殆ど無く、日向にいと暖かい。年末の八ヶ岳とは思えない陽気だ。

北稜の取付きまで行き、ここでロープを出してセットする。日比野さんは2年前に河野さんと同じルートを登っているので、トップを任せる。猪田さんがセカンド、ラストは私だ。

岩はミックスになっていて、かなり岩が露出している。薄手の手袋1枚で確保した。

日比野さんが慎重に直上して登って行き、ロープを伸ばしてゆく。45mロープが残り5m程になりようやくビレイ解除の声がかかった。

9mmのシングルなので、猪田さんとは5m位の間隔で同時に登って行く。そんなに難しい登攀ではないが、猪田さんの上るスピードに合わせて等間隔を意識して登る。

適度な緊張感はあるが、やはり岩を登っていると気分が高揚して楽しい。

2ピッチ目は35メートル程で灌木から

支点を取っていた。中間支点はあまり無かったので、トップは大変だっただろう。

2ピッチで岩場は終了してロープを回収する。その先で短いナイフリッジが有り、両側が切れ落ちたリッジを慎重に進んだ。

すぐに一般ルートと合流して50mも行かないくらいで阿弥陀岳頂上に着いた。

頂上もそれ程風は強くなく、3人で登頂の握手を交わし、記念写真を撮った。展望は最高で雲一つなく、富士山も綺麗に見えた。

阿弥陀からの下りは急傾斜なので慎重に下る。やはり積雪量が少ないので所々岩が露出している。何度かアップダウンをして最後の上りを登ると文三郎分岐に出た。

まだ時間も12時で少し登り足りない感じだったので、そこから文三郎尾根を下る二人と別れて、一人赤岳へ向かった。赤岳頂上にはすでに3名居て、三脚を立てて写真を撮っていた。話をすると、展望荘に泊まっていた、こんなに天気の良いのは珍しいと言っていた。

頂上小屋の側で軽く一本を取り、地藏尾根を下って行者小屋へ向かう。昨日と同様、行者小屋の中のテーブルを使わせてもらい宴会をした。予定通り阿弥陀北稜を登れたことが嬉しかった。

(記：須田)



12月29日(火) 4日目 下山

5時に起床して朝食にラーメンを取り支度を整えテントの撤収にかかる。テントも新しい事と天候もまずまずでありあまり凍っておらず収納できた。ワカンの紐を紛失したと思ったが帰りの登山道で枝にかかっているのを発見でき幸運であった。またピッケルカバーの落とし物を発見して途中解りやすそうな場所に残置する。出足はアイゼンを付

けていたが途中で外して歩行した。美濃戸山荘までの約2時間でカモシカにも出会う。美濃戸小屋で少し休憩をして美濃戸口へ到着、美濃戸口からのバスに乗り茅野駅周辺で風呂に入ろうかと思ったが、火曜日で休館であったので諦めて茅野駅そばの蕎麦屋で帰りのあずさに乗るまで1時間程馬刺しとお酒と蕎麦で打上げをした。お疲れさまでした。(記：猪田)

写真集



行者小屋から阿弥陀岳



北稜下部



北稜上部の核心部



1ピッチ目取り付き



1ピッチ目終了点から振り返る



2ピッチ目終了点から振り返る



天狗岳・硫黄岳・横岳（阿弥陀岳山頂）



阿弥陀岳山頂



阿弥陀岳から下り（奥は赤岳）



阿弥陀岳山頂



文三郎尾根上部から阿弥陀岳を振り返る



権現岳（奥は富士山と南アルプス）